

# 美濃和紙



美濃和紙は、美濃市を中心に作られる和紙のことを言います。古くは岐阜県南部の美濃地方で作られた和紙全般を指して「美濃紙」と呼びました。その歴史は、最も古いもので奈良時代まで遡ることができます。2014 年には、美濃和紙のうちの一つ「本美濃紙」がユネスコの無形文化遺産に登録されました。伝統工芸である美濃和紙の歴史や特徴について調べてみましょう。

## ◆◆本で調べる◆◆

「美濃和紙」に関する分類記号

和紙、手漉法	585.6
岐阜の紙製品・和紙	G585

本にはこのような背ラベルがついています。  
これをたよりに本を探すことができます。



℡ 分類記号については、一般用 No.1 をご覧ください。

℡ ここに示した背ラベルは中央館の場合です。

番号が 2 つある資料は、2 個所に資料が置かれています。

℡ 貸出禁止の場合、所蔵館に網掛けをしています。

℡ 背ラベルに「R」がついている資料は参考資料で貸出禁止です。詳細は一般版 No.1 「本の分類について」を参照してください。

℡ 所蔵館によって版が異なる場合があります。

## ■和紙とは

書名 著者名 出版社など	背ラベル	所蔵館（場所）
『世界遺産になった和紙 1～4』紙の博物館／監修 新日本出版社	585 セ 1～4	中央館（児童） 分館 長良
『産地別すぐわかる和紙の見わけ方』 久米 康生／著 東京美術	585.6 ク	中央館 分館 東部 西部
『和紙の里紀行；和紙周遊 続』小林 良生／著 美巧社	585.6 コ G585 コ	中央館（一般、郷土）
『WHAT' S WASHI?』紙 I NG	R585.6 ワ	中央館
『WASHI；紙のみぞ知る用と美』LIXIL 出版	585.6 ワ	中央館

## ■美濃和紙の製法と特徴

書名 著者名 出版社など	背ラベル	所蔵館（場所）
『美濃の和紙；企画展』 岐阜市歴史博物館	G585 ギレ	中央館（郷土） 分館 長良 東部 西部 長森 柳津
『MINOGAMI MANUAL 1・3；美濃紙入門』 大滝 國義／企画 美濃紙を愛する会	G585 ミ	中央館（郷土）
DVD「匠の世界；和紙その他 1・2」 コアラブックス	DVD750.2 タク	中央館（視聴覚）

## ■美濃和紙の沿革と産業発展

書名 著者名 出版社など	背ラベル	所蔵館（場所）
『美濃市史 通史編上・下巻』『美濃市史 史料編』 美濃市	G241 ミ	中央館（郷土）
『紙生産と地主制の形成』 丹羽 弘ほか／著	G585 カ	中央館（郷土）
『美濃紙の伝統』 久米 康生／著 美濃市役所	G585 ク	中央館（郷土）
『美濃紙；その歴史と展開』 澤村 守／編 同和製紙	G585 ミ	中央館（郷土）
『岐阜県手漉紙沿革史』 森 義一／著 岐阜県手漉紙製造統制組合	585.6 モ G585 モ	中央館（蔵個人、 閉架郷土）

## ◆◆インターネットで調べる◆◆

### ■本美濃紙（美濃市教育委員会）

<https://www.city.mino.gifu.jp/honminoshi/>

### ■美濃手すき和紙協同組合

<https://www.minowashi.or.jp>

### ■美濃和紙ブランド協同組合

<http://www.minowashi-japan.com>

## ◆◆紙すき体験をしてみよう◆◆

### ■美濃和紙の里会館 <https://www.city.mino.gifu.jp/minogami/>

場所：岐阜県美濃市萩生 1851 番地 3

開館時間：9 時～17 時（入館は閉館時間の 30 分前まで）

休館日：火曜日（火曜日が祝日の場合はその翌日）、祝日の翌日（祝日の翌日が土日の場合は開館）

年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）

入館料：大人 500 円 小・中学生 250 円

※紙すき体験は別途料金が必要です

お問合せ：岐阜市立中央図書館 058-262-2924

HP：<https://g-mediacosmos.jp/lib/>